



金谷川小だより

かなやがわ小フランドの創造

令和2年12月22日
福島市立金谷川小学校
児童数 81名
校長 宍戸 与一

感謝の心をもって1年の成長と歩みを振り返ろう！

「福島市新型コロナ緊急警報」が発令され、急きょ1日早く終業式を迎えることになってしまいました。令和2年度のスタートも、3日目から臨時休業になってしまいました。今年1年、これまで経験したことのない状況に置かれ、新たな生活様式を模索する日々でした。毎日の検温・体調確認の取り組みは、保護者の皆様にとってもご負担のことだったと思います。本当にありがとうございました。

今年度、予定どおり実施できた行事は数えるほどで、ほとんどが、中止・延期・変更（工夫して実施）せざるを得ませんでした。子どもたち、本当によく頑張りました。我慢しました。

現時点での感染状況を考えると、この先不安は消えませんが、こんな時こそ子どもたちの声に耳を傾け、励ましの言葉をかけ続けられる『子どもたちの応援団』でありたいと思っています。本校の子どもたちは、幸いにも朝の登校中に地域の皆様から、保護者の皆様から温かい言葉をかけられる機会があります。一つ一つの言葉が子どもたちの安心感につながっているはずです。二学期もたくさんの方々を支えていただいたおかげで事故もなく終えることができました。心から感謝申し上げます。

「特別の教科 道徳」～心を見つめる時間～

平成30年から「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）が始まりました。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標にしています。そのため、授業では、読み物教材の主人公に気持ちを理解するだけではなく、気持ちに共感したり、自分自身を重ねて考えたりするということが大切にしています。

例えば、子どもたちは、うそをついたりごまかしたりしないで、正直にした方がよいということはよくわかっています。しかし、わかっている、実際はなかなかできないこともあるでしょう。それは、胸に手を当ててみると、大人も同じなのではないでしょうか。そのことを理解したうえで、どのようにしていけばよいのかということを経験から教師や友達とのやり取り、そして、自分自身を見つめることでより深く考えていきます。

道徳科の授業は、目に見えない心をじっくりと見つめる時間です。その積み重ねが、子どもたち一人一人の心を磨き、自分らしさを輝かせるきっかけになるようにと願い、指導しています。

学力向上に向けて

～全教職員でサポート～

学期末、子どもたちの学力向上に向けて、大槻教諭、大竹教頭もサポートに入り、全学年、複数体制での指導を実施しました。3学期も引き続き実施していきたいと思っております。



2020年 大変お世話になりました。
来年、よい年でありますように🍀🍀🍀